

5. 白大豆「サチユタカ」の成熟期後立毛における裂莢の発生消長（情報）			
[要約] 「サチユタカ」は「タマホマレ」や「トヨシロメ」と比較して立毛で裂莢が発生しやすいので、裂莢による収穫ロスを防止するため、適期に早く収穫する。			
研究室名	作物研究室	連絡先	086-955-0275

[背景・ねらい]

「サチユタカ」は成熟期以降に裂莢が発生し、立毛あるいは収穫時に粒の落下による収穫ロスが起こる場合が多い。そこで、立毛での裂莢発生とその進行について品種間差異を奨励品種の中で検討する。

[成果の概要・特徴]

1. 立毛での裂莢の発生は、いずれの品種も成熟期後から増加した（図1）。
2. 裂莢の発生状況をみると、「サチユタカ」では裂莢発生率がいずれの時期でも、「タマホマレ」や「トヨシロメ」に比べて高かった（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 立毛の自然状態での調査結果である。
2. 播種時期は平成17年度が6月20日、平成18年度が6月29日である。

[具体的データ]

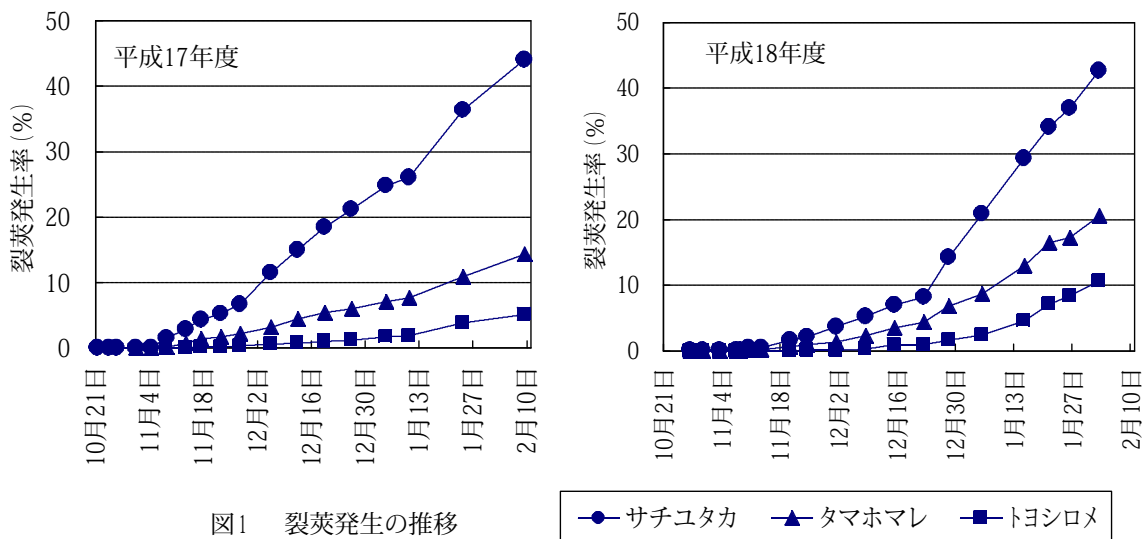


図1 裂莢発生の推移

注) 平成17年度の成熟期: サチユタカ10月22日、タマホマレ10月29日、トヨシロメ11月6日
 平成18年度の成熟期: サチユタカ10月26日、タマホマレ11月3日、トヨシロメ11月6日

[その他]

試験研究課題・事業名: 白大豆「サチユタカ」の高品質、安定生産技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 平成16~18年度